

【英文法の体系的整理：この授業の最終到達点】

→**モチベ**：できるだけ少ない命題数で最も豊かな数の、流通している英語発話を正当化し発生過程を説明できる可能性(=fecundity)を持った英文法理論を作ること。

命題①：英語とされる全てを「**発話(speech)**」と呼ぶ。ただし、特に1語のみで構成される発話を「**典型発話**」と呼ぶ。「典型発話」には「hello.」などがある。

命題②：「**文(sentence)**」とは発話のうち、「**SVX構造を顕在的に備えた発話**」のことである。なお、Xに代入可能なものには、「ゼロ」「補語」「目的語」「二重目的語」「文句」がある。

命題③：「**接続詞に導かれることで或る文の中に埋め込まれている特殊な文**」のことを「**節(clause)**」と呼ぶ。

命題④：「**句(phrase)**」とは発話のうち、「**SVX構造を顕在的には持たない2語以上の発話**」のことである。

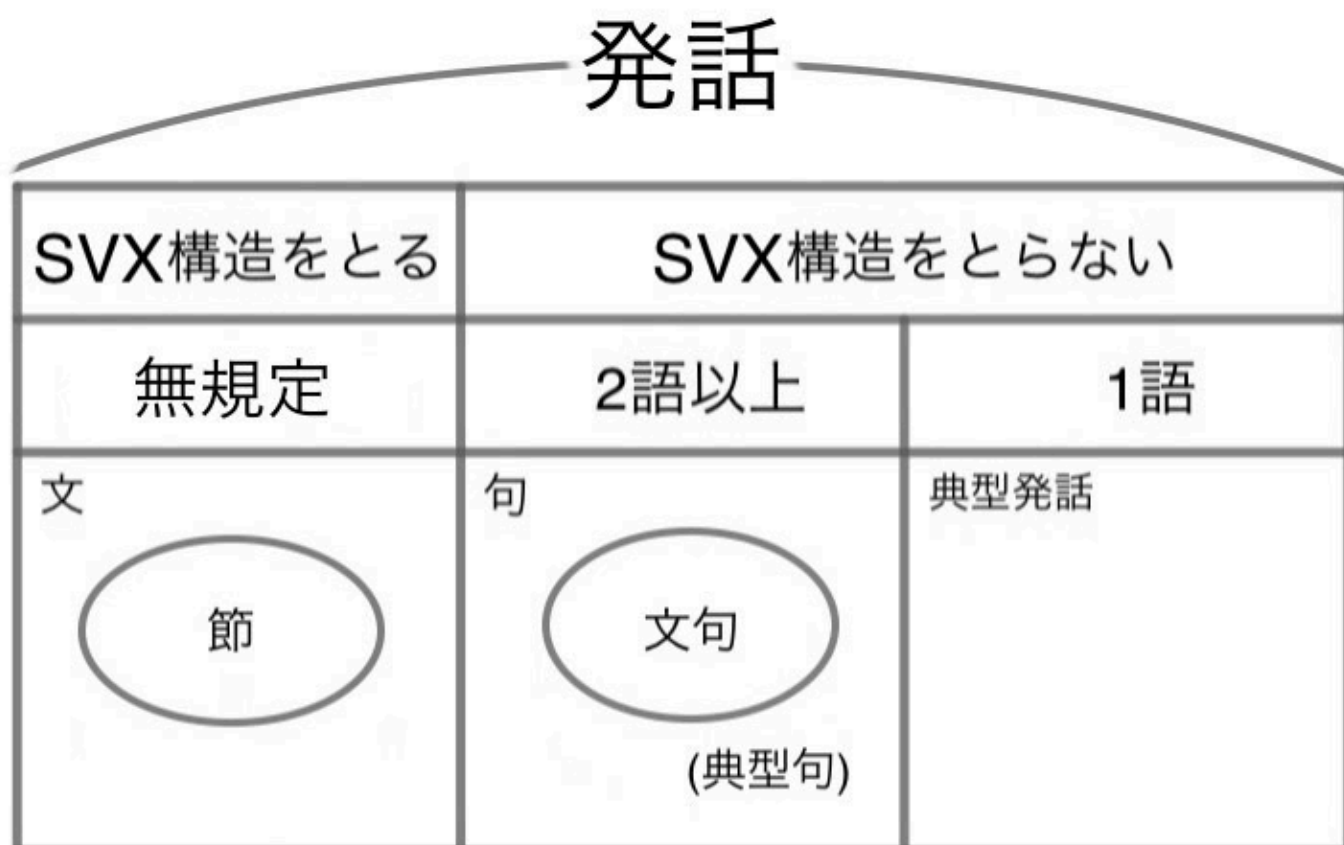
命題⑤：「**句**」のうち、「**節に変形規則を適用したことで作られたため、SVX構造が潜在している特殊な句**」を「**文句(nexus)**」と呼ぶ。つまり、句のうち、「**節由来の句**」が「**文句**」でありそれ以外の句を「**典型句**」と呼ぶ。「**典型句**」には「the book」などがある。

命題⑥：節を文句化するには主に「**準動詞(=①to付きの不定詞、②動名詞、③分詞の総称)**」を用いて、各々に固有の変形規則を適用する。(ただし、主にSVX構造のXに文句を代入する場合には、do動詞の文句化ならば、元の文の主語を目的格に変えて動詞を原形不定詞に変え、be動詞の文句化ならば、元の文の主語を目的格に変えてbe動詞を単に削除する。)

→**命題⑥の補題(lemma)**：命題⑥の()内については以下の**縮約記法(contraction)**を提案することができる。()内のbe動詞についての記述は、**①②③**とは別建ての規則としなくてもWe thought her (to be) beautiful.などが、「節」である「that she was beautiful」を**①**に固有の規則で文句化し、さらにそこから意味上の主語を指定する「for」と「to be」を、それらが構造的に不要なため省略したものだと言えば、書かなくて済む。また、()内のdo動詞についての記述も、原形不定詞は不定詞なので、**①**を単に「不定詞」と書き換え意味上の主語を指定する「for」は省略可能な場合もあるとすれば書かなくて済む。なお、「be動詞文」が「文句」に圧縮されると、当該be動詞を省略できるし省略しなければならぬことさえある理由は、もともとのbe動詞文において、そのbe動詞は英語文がSVX構造を強く要求するがゆえに構造的につけていただけたいわば「**形式動詞**」で、主節に新しく到来した他の動詞でSVX構造が賄える状態になれば、もはや不要だからである。そもそも「文」が「SPX構造」ではなく「SVX構造」を要求すること自体が日本語と異なる英語の特異性である。よって、この補題を考慮すれば、**命題⑥は「節の文句化とは常に節内動詞の準動詞化である」と言い換えられ、大幅に縮約することができる。**

命題⑦：全ての文は、「i.本動詞(=SVX構造のVに入る動詞)しかない文」か、「ii.本動詞と準動詞のペアで作られた文」か、「iii.本動詞と節のペアで作られた文」かのどれかである。(「You busy?」のようないわゆる「動詞なし文」については「動詞」を復元してやって「文」に分類してよい。)

命題⑧：仮定法動詞と、文句内準動詞は、単独ではその出来事の時点指定できないため、基準時における相(=the degree of completion)を指定すること、主に基準時において未完了なのか完了しているのかを指定することで自らの生起時点を間接的に示唆する。(同様のいわば「**困った時のハブ頼み(="have" ex machina)**」というべき構造は、前述した**①②③**の三大準動詞(=「toのあとは原形不定詞だから過去形がこれない」とか「ingは動詞の原形につけるから過去形には付けられない」という理由)と、**④**仮定法においてのみならず、**⑤**「過去形(=V ed)にはもう過去形がないから」という理由で「大過去」に「had + Vp.p.」を用いたり、**⑥**「助動詞の後は原形不定詞だから」という理由で「過去についての推量」には原形不定詞のhaveを用いるなどと、至るところで見られる。**⑦**このような完了形の振る舞いは、フランス語においても接続法過去と接続法大過去では時制的価値が希薄化し、相だけが問題になっているという点で、構造が共通している。だからこそ接続法現在と接続法半過去は、どちらも未完了相であるという意味では同じだから、本来ならば主節が現在ならば前者を使い、主節が過去ならば後者を使うという時制的差異があるにもかかわらず、口語ではその差異が問題にならないので、後者を使うべきところで**相は同じでより平易な表現**である前者が代用されており、またこれと同様に、接続法過去と接続法大過去は、どちらも完了相であるという意味では同じだから本来の時制的差異が口語では問題にならず、後者を使うべきところで**相は同じでより平易な表現**である前者が代用されているのだ。)



↑この図の作成者は、高校2年生の錦織孝祐君である。この場を借りてご助力に感謝申し上げます。